あぷりのサプリ

vol.20
2021.2.5

デイサービスあぷり“For Healthy Life”
リーダー・教育部

竹田（たけだ）智子（さとこ）

デイサービスあぷり“For Healthy Life”にてリーダーとしての職務に邁進しながら、教育部にも所属し、活躍の幅を広げている竹田智子。進路に迷い、悩んだ時期を経て、なぜ介護職に就いたのか。これまでの歩みと、介護にかける熱い思いを紐解いた。

祖母が導いてくれた介護への道

竹田は、両親が共働きだったこともあり、いわゆる〝おばあちゃん子〟として育った。父方の祖母とは同居、かつ、母方の祖母の住む伯父・伯母宅との行き来も多かったという。

「伯父・伯母、祖母達には本当に世話になりましたし、とても可愛がってもらいました。」

短期大学を卒業後は、様々な職を経験しながら社会人としての道のりを歩んだ。ある時、同僚が硬い表情をして働いているのを見てハッとした。同じような表情をして自分も働いているのではないか？同じ時間働くのなら、生き生きと働きたい、そう強く思った。自分はこの先どんな仕事を選ぶべきなのか？どんな仕事なら生き生きと働けるのか？と自問自答を重ねる日々。同じ頃、母方の祖母が体調を崩すようになり、少しずつ弱々しくなっていくのを感じていた。

「大好きな祖母に恩返しがしたい、役に立ちたいという思いが膨らんでいき、介護に興味を持ち始めました。」

ハローワークでヘルパーの資格が取得できる講座の存在を知ると早速受講試験を受け、半年間学校に通い、ヘルパー1級の資格を取得。その後、特別養護老人ホームに就職した。

「自分が好きなことで楽しく仕事をしていく。介護は祖母が見つけてくれた仕事なのです。」

母方の祖母の家とは距離があったうえ、仕事の都合でなかなか会いにいくことが難しい状況だったが、祖母の入院先で1度だけオムツを替えることができたのをよく覚えているという。

あぷりとの出会い

結婚を機に退職して以降は、家事や子育てに奮闘する毎日を送っていた竹田。子育ても一段落した頃、再び介護職に携わりたいとの思いが湧いた。ブランクはあったものの、一通りの業務は経験していたのであまり不安を感じることはなく、〝介護の仕事がしたい〟という思いの方が勝った。そんなとき、あぷり志紀の新規開設を知り、すぐに面接を受け入社。現場で利用者様の介護全般にあたった。

入社から約2年半後、デイサービスあぷり“For Healthy Life”の立ち上げとともに異動。介護福祉士の資格も取得した。最初は利用者様も職員も少なく、何をするにも試行錯誤だった。双方の人数が増えるとともに、頭を悩ませることも増えていった。問題も生じるし、改善・改革も必要になる。変化しながらやってきた。ずっと同じが当たり前ではなく、成長し続けなければいけない。そう竹田は話す。

ある時より職員の成長のため、〝手が足りない・フォローが必要な時〟以外は自分が前に出るのではなく、職員を信頼して現場を任せているという。

「社員で話し合いながら様々な問題解決にあたることができる環境や、任せられる職員がいる状況をとてもありがたく感じています。」

2年前に立ち上がった教育部にも所属。職員の教育と皆を支えるリーダーの立場としての仕事に専念している。

入社して丸8年になる。これだけ長く勤め続けていられるのも、みんなの意見を聞き、〝やるなら振り切れ！〟と鼓舞してくれる社長と学び方を示してくれる田島管理者、熱く介護を語れる同僚の存在が大きいと語る。

「人は宝。家族や友人、職場の方々、たくさんの方に支えられて今の自分があるのだと思います。」

おもてなしの心を大切に

以前の介護業界では、介護を〝してあげている〟といった態度の職員も少なくなかった。

『心ある介護』を目指していた竹田は、あぷり志紀にいた時代にある人から『目配り・気配り・心配り』という言葉を教わり、その言葉に感銘を受けた。以降、職員に『目配り・気配り・心配り＋相手を慮る』おもてなしの心を伝え続けている。

デイサービスは半日ごとの入れ替えで1日の枠は50枠・総利用人数は、約180～200名にのぼるが、職員は利用者様の些細な変化を見逃すまいとする。例えば、来所時にいつもと表情・話し方が違う、足湯に浸かった際にケガや浮腫、血色の異常を見つけ連絡する。体調や転倒されていないかどうかなどを会話から引き出し、受診に繋げる等。こういったことに気付けるのは、普段から利用者様お一人お一人をよく見ているからこそ。目配り・気配り・心配りの心が浸透している結果なのだ。

勿論、これだけの人が集まれば、誤解や受け取り方の違いなど、利用者様とすれ違うこともある。しかしデイサービスのもう一つの特徴である、ワンフロアで利用者様と職員が一堂に会していることを強みに、皆が調和できるよう、チームワークで頑張っていきたいと意欲的だ。

皆で、前へ

「考えや熱量は人それぞれですが、介護の話をすると熱くなり、思いに共鳴してくれる仲間がいます。皆で同じ方向を目指し、進んでいきたいと思います。」

自身も歩みを止めずに、知識や足りない部分については、勉強を続けているという。そして楽しみながら日々成長をと、初心を忘れない。ここ数年で、人生観や仕事観がよりはっきりとみえるようにもなってきた。

〝楽しむ〟とは楽をするではなく、一生懸命、真剣に取り組むことだと思う。頑張った分だけ喜んだり、落ち込んだりの振り幅が広がり、その幅の広さが人生の深みになるのではないか。頑張った人にしか味わえない〝楽しさ〟を皆にも味わってもらいたいし、そういう職場を作っていきたい。一度きりの人生、思いっきり楽しんで悔いのないように……。前を向き、これからも竹田の奮闘は続く。

▲デイサービスあぷり“For Healthy Life”の仲間と

▲教育部の仲間と